

「言葉」の魅力にひかれて

愛知淑徳大学文学部教育学科 教授 中嶋真弓



「風」と聞いて
どのような「風」
を思い浮かべるだ
ろうか。「薫風」
「東風」「羽風」
等々。古人は、五
感を働かせわず
かな違いにも心を
動かし、目を向け

言葉を生み出してきた。芭蕉は、俳諧創作にあたり何
十回と推敲を重ねたという。自分の思いを確かに伝え
るためにどの言葉をつかうのがふさわしいかを吟味す
る。それを行う過程は、正に、その人のものの見方・考え
方、センス、生き方の表出なのである。

文化庁が毎年行っている「国語に関する世論調査」の
結果が公表されるたびに、言葉の話題が新聞を賑わ
す。時代を反映し、時代とともに変容していく言葉。そ
の言葉の魅力にひかれ、「言葉(国語)」に携わる仕事に
就きたいと今まで歩んできた。

私をそのような思いにさせたのは、小学校低学年の
時に書いた一編の詩からではないかと思う。「おぼあ
ちゃん」。祖母のことを書いた詩が学級通信に載ったの

である。それ以来、詩を書く楽しさとともに言葉の魅
力にひかれたのである。そして、その思いを貫き叶える
ことができたのは愛知淑徳高等学校、愛知淑徳大学
(国文学科)でよき先生方と出合い学びの楽しさをご
教授いただいたおかげと感謝している。母校卒業後中
学校(国語)教員となり、初任の時には「〇〇国文」と称
して夏目漱石作品の教材分析を整理し生徒達に読ん
でもらうなどした。今から考えると何と大胆なことを
したのだろうかと思うと同時に、我ながらそのパワーに
感心する。両親共に教員であつた家庭環境の中で自ず
と教員の道に進んだのも当然かも知れない。常に生徒
のことを考えていた父親、遅くまで教材研究をしてい
た母親、その姿を見て私は育つたのである。

「遣つ付け仕事」という言葉がある。忙しい中でついつ
い仕事を形式的に「片付ける」「処理する」と捉えてし
まうことがそのような姿勢や行動となつて表出するの
である。しかし前述した「言葉はその人のものの見方・
考え方、センス、生き方」とするならば、仕事等も「遣り
熟す」「為遂げる」という思いで過ごしていきたい。それ
が、その人の姿勢や行動となり、ひいては生き方をより
向上させ、豊かにすると思えられるからである。